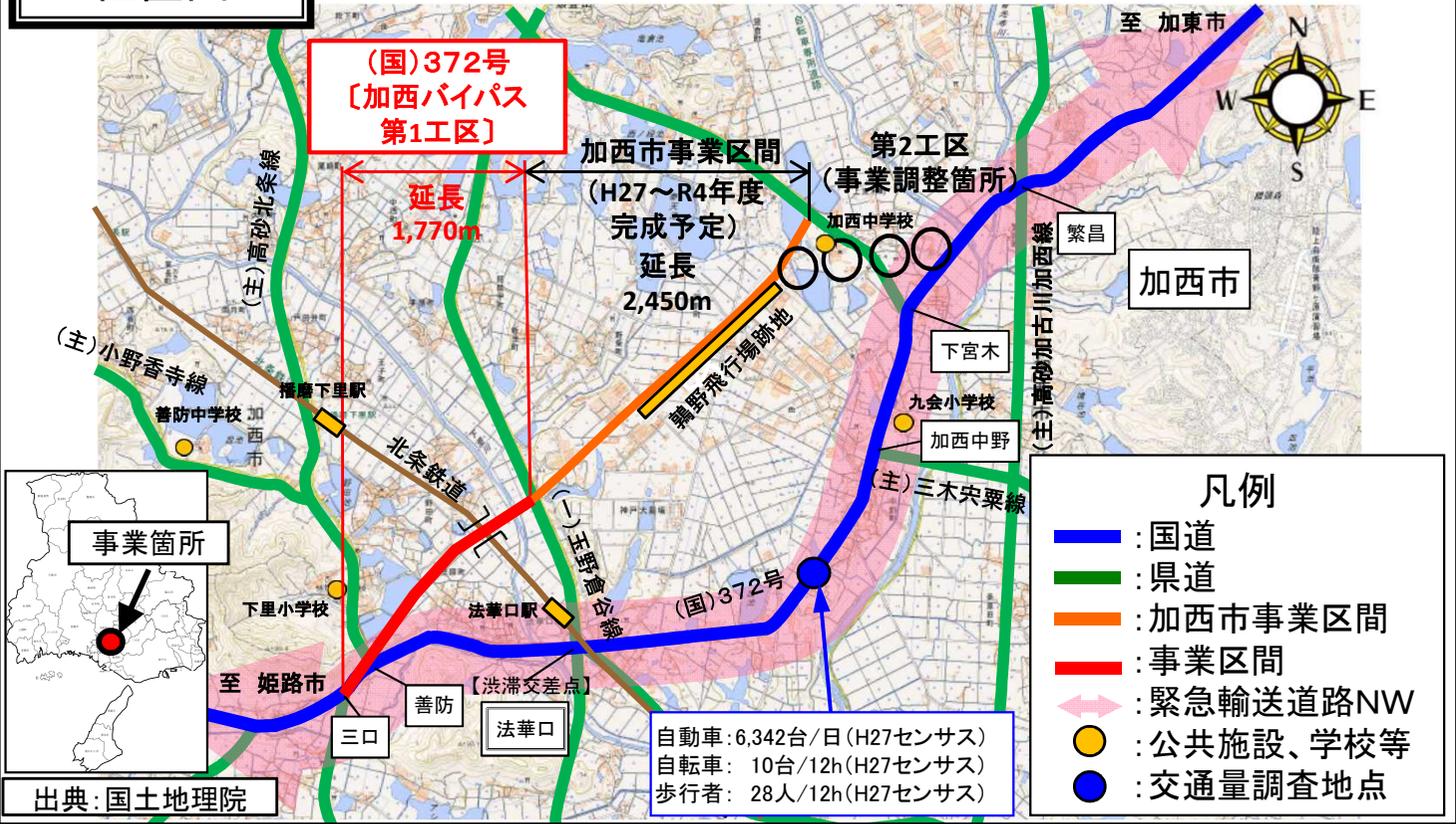


## 投資事業評価調書（新規）

<b>部課室名</b>	県土整備部土木局 道路街路課	<b>記入責任者職氏名</b> (担当者氏名)	道路街路課長 宇野 文章 (国道・橋梁班長 橋本 直樹)	<b>内線</b>	4362 (4378)	
<b>事業種目</b>	<b>事業名</b>	<b>事業区間</b>	<b>総事業費</b>	<b>内用地補償費</b>	<b>着手予定年度</b>	<b>完了予定年度</b>
道路事業	道路改築事業 一般国道 372 号 〔加西バイパス 第 1 工区〕	兵庫県加西市 <small>ひがしかさほら みくち</small> 東笠原町～三口町	18 億円	8 億円	令和 2 (2020) 年度	令和 7 (2025) 年度
<b>事業目的</b>			<b>事業内容</b>			
<p>本路線は、京都府亀岡市を起点とし、兵庫県姫路市に至る幹線道路であり、北播磨と中播磨を東西で結び、沿線地域の生活、産業を支える重要な路線である。</p> <p>○安全・安心で円滑な交通の確保 大型車混入率が高く交通事故が多発している現道の通過交通を転換・分散させることにより渋滞交差点の解消及び通学児童等の安全を確保する。</p> <p>○地域産業発展への貢献 加西工業団地から山陽自動車道加古川北 IC へのアクセス向上により物流・流通利便性が向上し、企業立地の促進など地域産業の発展に貢献する。</p> <p>○鶉野地区へのアクセス向上による地域活性化の支援 鶉野飛行場跡地及び周辺の歴史遺産を活かしたまちづくりが進められているほか、次世代施設園芸拠点の取組みが進む鶉野地区へのアクセス向上により加西市の地域活性化を支援する。</p>			<p>【延長】道路改築 1,770m 【構造規格】第 3 種第 2 級 【計画幅員】 バイパス区間：2 車線 歩道なし 車道 6.5m (全幅 9.5m) 現道拡幅区間：2 車線 片側歩道 2.5m 車道 6.5m (全幅 11.5m) 【計画交通量】4,400 台/日 (R12 推計) 【現況交通量】 自動車 6,342 台/日 (H27 センサス) 自転車 10 台/12h (H27 センサス) 歩行者 28 人/12h (H27 センサス) 【負担割合】 国 50% 県 50%</p>			
<b>評価視点</b>		<b>評価結果の説明</b>				
(1) 必要性		<p>① 法華口交差点※は北条鉄道の踏切に近接しているため、踏切の一旦停止に起因し慢性的な渋滞が発生している。また、国道 372 号沿線の物流拠点を往来する大型車(混入率 27%:H27 センサス)が多く、過去 5 年間で交通事故が 44 件(人身事故)と多発している。さらに現道の一部は小・中学生の通学経路であるが、路肩が狭く、歩道未整備箇所もあり通学児童等が危険な状況にある。このため通過交通の転換・分散により、渋滞解消及び、交通事故発生リスクの低減を図り、安全・安心で円滑な交通を確保する。</p> <p style="text-align: center;">※渋滞解消プログラム(2019～2023)掲載箇所</p> <p>② 加西工業団地から山陽自動車道加古川北 IC へのアクセス向上により物流・流通利便性が向上し、企業立地の促進など地域産業の発展に貢献する。また、物流事業者の時間効率の改善やドライバーの負担軽減にも繋がる。</p> <p>③ 加西市鶉野地区では鶉野飛行場跡地及び周辺の歴史遺産を活用して市内外からの観光客と地域住民が交流する観光まちづくりを推進しているほか、次世代施設園芸拠点ではトマトの一大供給基地として、生産・流通の一貫した取組が進められており、これら施設等へのアクセス向上により地域活性化を支援する。</p>				
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)		<p>① 費用便益比 B/C=1.5</p> <p>② 加西市より鶉野地区へのアクセス道路として早期整備の要望があるほか、県と市が連携して地元自治会との調整を進める中で事業に対する地元の期待が高まっていることから、事業の執行環境が整っている。</p> <p>③ 加西バイパス(事業調整箇所を含む)整備後の現道の管理引継ぎについて、加西市と協議が整っている。</p>				
(3) 環境適合性		<p>① 通過交通をバイパスに転換させることで、交通騒音や排気ガスなどに対する沿道環境への負荷が軽減される。</p>				
(4) 優先性		<p>① 加西市が施工しているバイパス区間と一体的に整備することにより早期の事業効果が期待できる。</p> <p>② 鶉野飛行場跡地が広域避難所に指定されていること、また防災備蓄倉庫が平成 30(2018)年度に完成したことから防災・減災に寄与するために早期整備が必要である。</p>				
<b>【事後評価】</b> 対象・対象外		<p>① 地域の連携・交流等の効果や事業に対する地域住民の意見等の調査を実施し、事後評価を行う。</p>				

# 道路事業 一般国道 372号〔加西バイパス第1工区〕

## 位置図



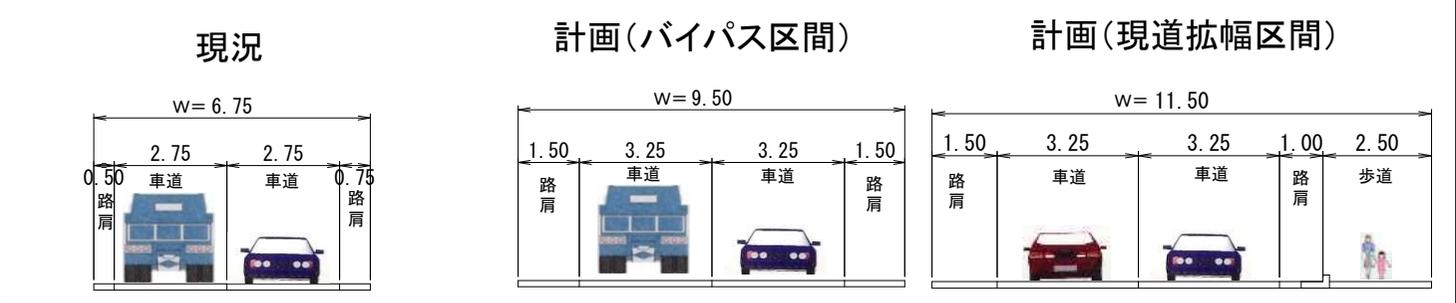
## 目的

- ①安全・安心で円滑な交通の確保
- ②地域産業発展への貢献
- ③鶉野地区へのアクセス向上による地域活性化の支援

## 事業概要

事業区間: 加西市東笠原町<sup>ひがしかさばら</sup>～三口町<sup>みくち</sup>  
 総事業費: 18億円  
 内用地補償費: 8億円  
 事業期間: R2～R7  
 事業概要: バイパス、歩道  
 延長: 1,770m  
 計画幅員: バイパス区間: 6.5m(9.5m)  
                   現道拡幅区間: 6.5m(11.5m)  
 計画交通量: 4,400台/日 (令和12推計)  
 費用便益比B/C: 1.5

## 横断図



## 工程表

工種	年 度					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査・設計						
用地補償						
道路改良						

# 事業の必要性・優先性

①渋滞交差点解消プログラム(4期)に位置づけられた法華口交差点の渋滞解消を図る。通過交通をバイパスに転換することにより現道の事故発生リスクを低減させるとともに通学児童等の安全を確保する。

## 平面図



## 現況写真

①法華口交差点の渋滞状況 (平成30年6月21日)



法華口交差点渋滞状況(平成30年6月21日)



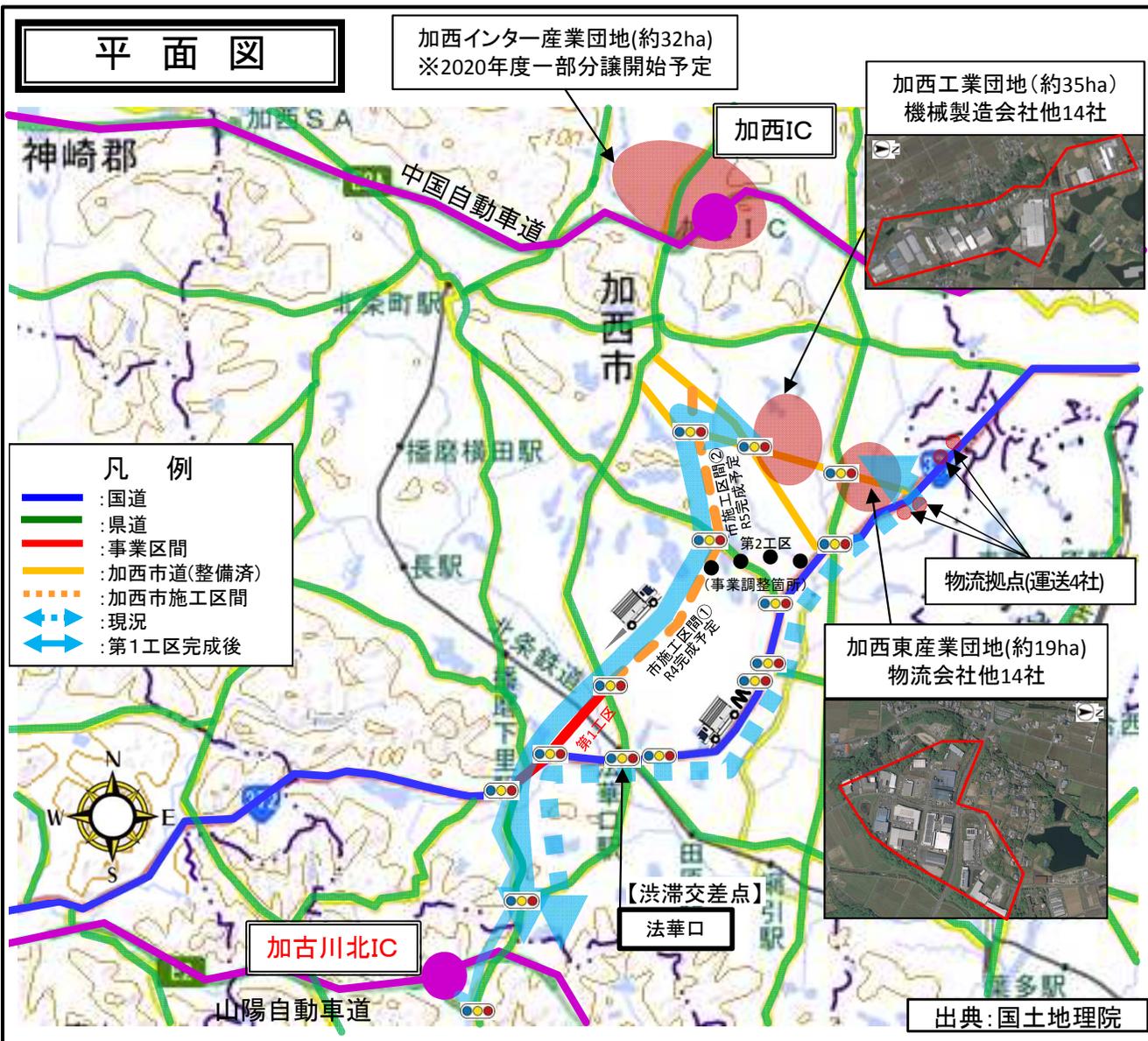
②通学児童が危険



# 事業の必要性・優先性

②加西工業団地から山陽自動車道加古川北ICへのアクセス向上により物流・流通利便性が向上し、企業立地の促進など地域産業の発展に貢献する。また、物流事業者の時間効率の改善やドライバーの負担軽減にも繋がる。

## 平面図



加西工業団地～加古川北IC間の所要時間の短縮等によるアクセス性の向上

	現況		加西バイパス 第1工区完成後 (加西市区間含む)
	←→		←→
	(加西工業団地～加古川北ICの比較)		
所要時間	約19分	短縮	約13分
信号数	11	減少	8(想定)
踏切箇所	1 (平面交差)	減少	0 (立体交差)

### 【参考】

加西バイパス全線供用時の所要時間の短縮

	現況		加西バイパス 全線完成後
	(加西東産業団地～加古川北ICの比較)		
所要時間	約17分	短縮	約13分

# 事業の必要性・優先性

③ 鶉野飛行場跡地及び周辺の歴史遺産を活かしたまちづくりが進められているほか、次世代施設園芸拠点(トマトの一大供給基地として、生産・流通を一貫して実施)の取組みが進む鶉野地区へのアクセス向上により加西市の地域活性化を支援する。

## 平面図



## ① 鶉野飛行場跡地及び周辺の整備内容

歴史遺産を活用した観光・平和学習や防災拠点、地域住民の憩いの場として、「防災ゾーン」、「レクリエーションゾーン」、「歴史遺産群ゾーン」の3つのゾーンを整備。

**観光入込客数**  
H28実績: 8千人/年 ⇒ R3目標: 5万人/年

### 防災ゾーン

- ・災害用の備蓄倉庫を整備済。滑走路を保存活用し、災害時の広域避難場所として広場や駐車場を整備予定
- ・戦闘機紫電改(しでんかい)の模型展示や映像資料を含む展示スペースと販売・飲食スペースも兼ね備えた拠点施設を整備予定



防災備蓄倉庫



戦闘機紫電改(実物大模型)の展示

### 歴史遺産群ゾーン

- ・既存の防空壕や爆弾庫、機銃座などの歴史遺産を活用
- ・北条鉄道法華口駅から鶉野飛行場跡地までの散策路も合わせて整備中



巨大防空壕の一般公開



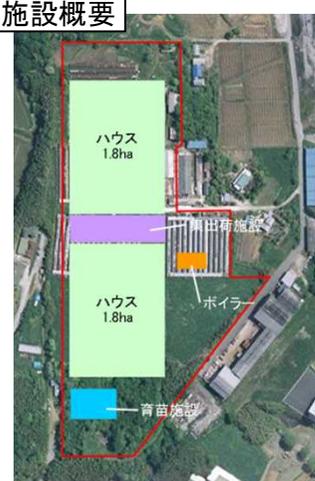
機銃座の状況

## ② 次世代施設園芸拠点(ハウス3.6ha)

### 航空写真



### 施設概要



生産状況



もりたろう(大玉トマト)



スプラッシュ(ミニトマト)

- ・高収量・4定(定時、定量、定質、定価格)生産を実現する先導的施設
- ・育苗⇒生産⇒出荷の一連作業を集約した一大供給基地
- ・木質バイオマスを活用したエネルギー供給

生産作物: トマト(大玉・ミニ)(通年栽培・出荷)  
生産量: 約900t/年 (県全体の1/10)  
(大玉約600t、ミニ約300t)  
出荷先: 神戸市中央卸売市場本場(神戸市兵庫区)等

### レクリエーションゾーン

- ・鶉野飛行場跡地を地域住民の憩いの場にするために、散策用歩道を整備中
- ・滑走路を利用し、多様なイベントに対応



散策用歩道(整備中)

## 事業の有効性・効率性

### (1) 費用対効果

#### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
走行時間短縮便益	目的地までにかかる時間が短くなることによる便益
走行経費減少便益	交通の流れがスムーズになり、燃費などが向上することによる便益
交通事故減少便益	交通事故が減少することによる便益

#### ② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費		
				(百万円)	(百万円)	(百万円)		
道路	道路改築事業 一般国道 372号 [加西バイパス 第1工区]	走行時間 短縮便益	1,403	計画交通量 4,400台/日	1,454	1,385	69	1.5
		走行経費 減少便益	694					
		交通事故 減少便益	123					
		計	2,220					

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	○	・防災ゾーンに建設された防災備蓄倉庫へのアクセス性の向上
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	—	—
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○	・広域避難所(鶉野飛行場跡地)へのアクセス性の向上
	平時	救急医療体制の支援	—	—
		交通安全対策	○	・歩道設置による歩行者(小中学生の通学利用等)の安全確保
	②地域の活性化	地域間交流の促進	—	—
中心市街地の活性化		—	—	
地域産業の活性化		○	・工業団地や次世代施設園芸拠点へのアクセス性の向上	
観光支援		○	・鶉野飛行場跡地等、周辺施設へのアクセス性の向上	
地域プロジェクト等支援		—	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—	—	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○	・通過交通の転換による騒音、排気ガス等の沿道環境への負担軽減	

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	加西市より鶉野地区へのアクセス道路として早期整備の要望があるほか、県と市が連携して地元自治会との調整を進める中で事業に対する地元の期待が高まっている。
-------	---